

2012 KICA エッセーコンテストの入賞者発表!!

10月14日に行われた予備審査会で、次の6名の方々の入賞が決まりました。入賞者は11月18日に京都市国際交流会館（京都市左京区）で行われる公開の最終審査会で口頭発表し、優勝を競います。

日本語の部

クレア・サマーズ	英国	「私の目から見る日本と外国」
Andassova Maral	カザフスタン	「私の原点 — 『古事記』という日本」
任 穎	中国	「花一輪 — 和の姿」

英語の部

Tekhla Boven	Belgium	"Neither West nor East, but Somewhere in-between"
Maarten Gerkes	Netherland	"To what extent is Japan now a normal state in terms of its foreign policy?"
Michael R Smith	USA	"A Tohoku Journal"

日本語の部には 27 編、英語の部には 52 編のエッセーを寄せていただきました。審査の基準として、独自性、現代性と国際性、説得力、表現力の4つの項目を設け、厳正に審査しました。多くの力作の中から日英各3編の入賞作を選ぶのは非常に難しいことでしたが、議論を尽くして決定しました。

審査委員

日本語の部

加藤久雄（奈良教育大学教授・副学長、日本語教育学）
齋木宣隆（国際交流基金京都支部長）
高木路子（京都国際文化協会理事・事務局長）
服部友彦（淡交社副社長・編集長）
廣瀬和子（京都国際文化協会理事）
細川武稔（華道家元池坊総務所中央研究所）

英語の部

海田能宏（京都大学名誉教授、アジア地域研究）
Craig Smith（京都外国語大学教授、言語・文化交流）
児玉實英（同志社女子大学名誉教授・元学長、米文学）
柴田重徳（京都市国際交流会館館長）
Janet 園（同志社女子大学元教授、英米文学）
Todd Thorpe（近畿大学教授、言語・文化交流）